

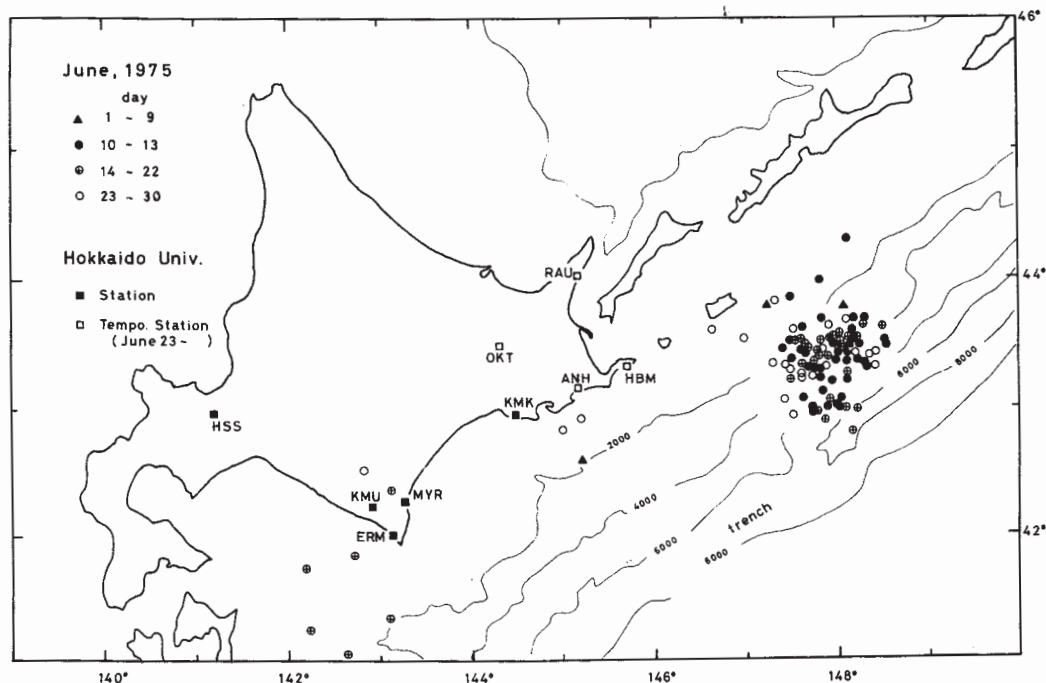
1 - 2 1975年6月北海道東方沖地震の観測

Observation of the Earthquake of June 1975 in the East off Hokkaido

北海道大学理学部
Faculty of Science,
Hokkaido University

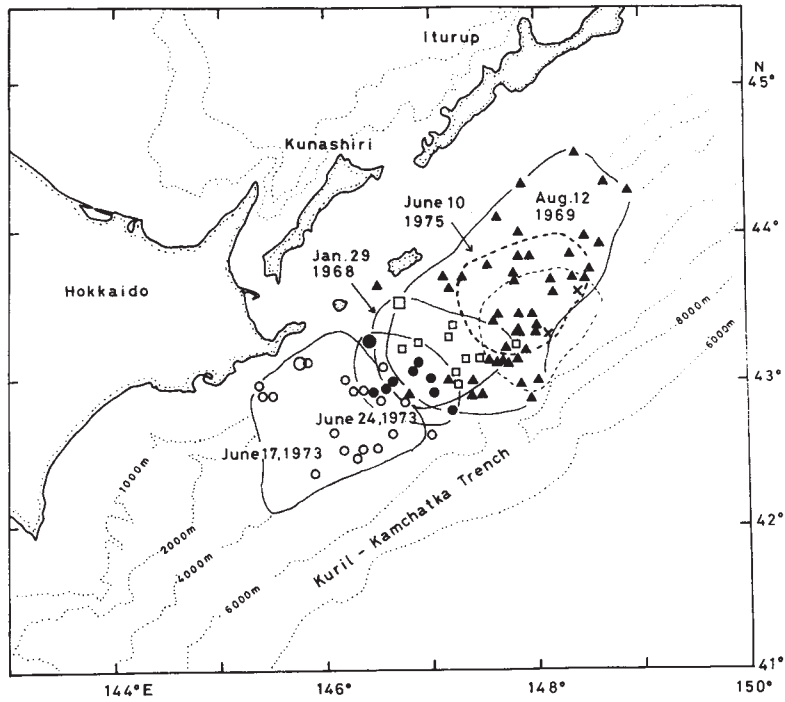
1975年6月10日22時に根室東方沖でM7級の津波地震が発生し、それ以後群発的に有感地震が起った。第1図の如く北海道大学理学部地震観測所は定常的観測点(黒四角印)に加えて北海道東部に4ヶ所臨時観測点(四角印)を設けた。これらの観測から得られた余震の震央分布が丸印で示されている。また前震と思われる地震(三角印)が2個決っている。観測点の配置を考えると実際の余震域は第2図の太い点線内にあるものと思われる。したがって今回の地震域は1969年8月の北海道東方沖地震の余震域内であり、かつ1968年1月の色丹沖地震(M6.8)の余震域の隣りにあたる。えりも地殻変動観測所の伸縮記録によると、6月10日の地震は後の地震に比べて振巾が大きくかつかなり長周期であった(第3図)。したがって長周期波で見ると今回の地震群は10日の地震を本震とする「本震-余震型」に属することが分る。

(鈴木貞臣)



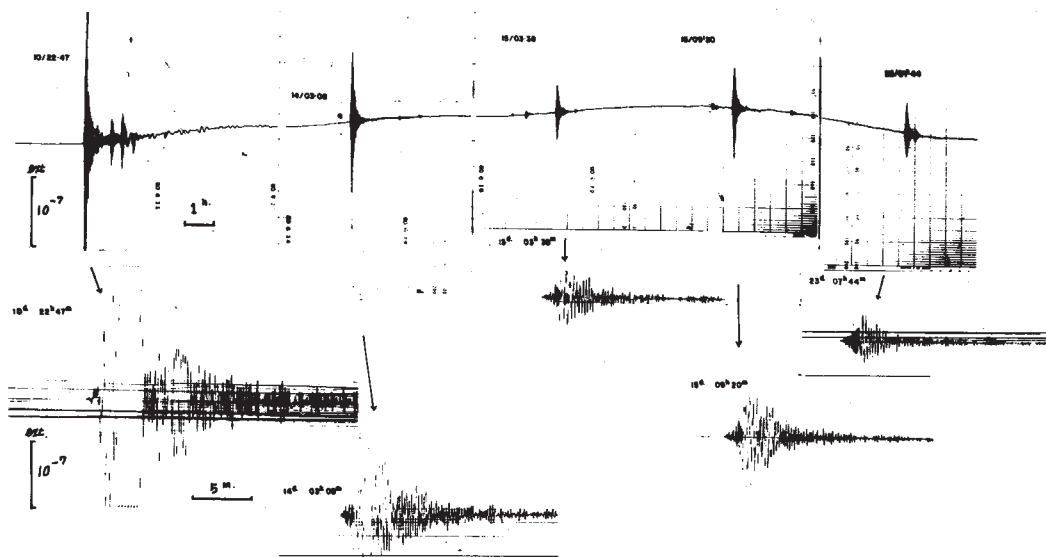
第1図 観測点および震央(1975年6月中)

Fig. 1 Location of observation stations and epicenters of earthquakes during June, 1975.



第2図 1975年6月の地震の余震域とその周辺で起ったM7級以上の余震域(1974年以後)

Fig. 2 Aftershock regions of the earthquake of June 1975 and large earthquakes near the South Kuriles.



第3図 えりもにおける伸縮計記録

Fig. 3 Strainmeter records of Erimo Observatory.